

学校目標・経営方針	新時代を主体的・創造的に生き、知徳体をそなえ、地域の希望となり未来となり光となって、山梨や日本を支え、世界に羽ばたくエンジニアを育成する。
-----------	---

山梨県立甲府工業高等学校校長

永田典弘

本年度の重点目標	1 社会が必要とする人間力を育成する。	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)		評価	4 良くできている。
	2 基礎的基本的な学力の定着を図る。		B 概ね達成できた。(6割以上)			3 できている。
	3 健全な心身を育成する。		C 不十分である。(4割以上)			2 あまりできていない。
	4 新しい時代に対応した教育活動を推進する。		D 達成できなかった。(4割未満)			1 できていない。

自己評価					
本年度の重点目標			年度末評価(令和4年1月19日現在)		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度 成果と次年度への課題・改善策
1	社会が必要とする人間力を育成する。	基本的生活習慣の定着を図り、規範意識を育む。	毎日の始業前遅刻指導と遅刻者指導の実施	A	出席率については、1学期は99.4%、2学期は99.1%であり、基本的生活習慣は身についている生徒が多い。生徒指導部および各学年の先生方を中心に、毎日の遅刻指導を徹底しており、ほとんどの生徒は遅刻が無いが、一部の生徒で指導の効果があまり見られないことが課題である。新型コロナの影響で原付安全運転講習会の実技が中止になり、交通講話も一部リモートで行われ、いろいろと制約はあったが、チャレンジ123への参加等、「交通違反・事故0」を目標に取り組んだ。1月末時点で交通事故・違反とも昨年を下回っているが、引き続き粘り強い指導が必要である。 今年度は昨年度実施できなかった1年生のインターンシップを2学年で実施した。2学年の全科と1学年建築科・土木科は企業見学、現場見学会を実施する等、働く意義を自覚させ、学習意欲を喚起する取り組みを行った。また、コロナ禍ではあるができる範囲で地域社会や企業との連携を行い、生徒には知識・技術の向上に加え、技術者としての人間性が育まれた。
		あらゆる場を道徳教育の機会と捉えて人間教育を行う。	学校生活での指導の徹底		
		社会人としての基礎力を育成し、自らの考えで行動できる力を育む。	情報モラル形成と、交通事故・違反減少への指導		
		地域社会や企業との連携を図り、それらの体験活動を通して社会の一員としての自覚と責任を持たせ、社会に貢献できる人を育てる。	企業現場実習及びボランティア活動の実施		
2	基礎的基本的な学力の定着を図る。	主体的・対話的で深い学びの授業(アクティブラーニング)を実践する。	相互授業参観及び研究授業の実施	B	高校教育課から示されている「授業づくりの7つの視点」を単元設計や授業の展開に活用するとともに、教員相互の授業参観や研究授業の視点とし、生徒の学習に取り組む変容を見取ることで、教員の資質向上を図り、主体的・対話的で深い学びの実現をさらに進めていきたい。また、全教職員で新学習指導要領に向けた教育課程および評価の取り組みについてさらに推進していく。 全ての教科・学科で、コロナ禍という新しい生活環境の中での授業研究を進め、主体的・対話的で深い学びをいかに実現させるかに取り組む必要がある。
		学科の特色を生かした専門教育を展開し、興味・関心を持たせ学習意欲を向上させる。	授業研究の推進と、観点別評価の実施		
		目指す技術者をイメージさせ、資格取得・大会等への挑戦を通じて進路実現を図る。	資格取得指導の徹底と大会参加の推進		
		教育活動全体を通して話す力、聞く力、書く力、読む力を育成する。	面接及び小論文指導の充実		
3	健全な心身を育成する。	部活動・委員会活動をより活発に展開し、豊かな人間性を育む。	年間指導目標・年間指導計画の作成	B	「やまなし運動部活動ガイドライン」に沿った指導を目指し、教員の負担軽減、合理的かつ効率的・効果的な活動の推進、適切な休養日等の設定、参加する大会や練習試合等の見直し、生徒のニーズを踏まえた環境の整備等を行っていく必要がある。 また、コロナ禍の部・委員会活動の在り方を引き続き探っていかなければならない。人間教育を推し進める為の活動を継続させるためには、常に感染対策を意識することが大切である。また、限られた活動となるため、科学的な練習メニューの研究や練習の効率化など、量ではなく質で人間性を高めることを目標に指導を行う必要がある。
		体育・スポーツを積極的に推進し、体力・精神力の向上を図る。	生徒へのきめ細やかな指導の確立		
		健康、安全や食に関する教育を行い、自他の生命を尊重する心を育む。	各教科での取り組みと各種講演会の実施		
		部活動運営の適正化を図り、部活動指導の負担軽減による効率化を追求する。	適切な休業日の設定		
4	新しい時代に対応した教育活動を推進する。	文部科学省指定のSPH事業を推進する。	SPH事業の集大成と令和4年度への引継ぎ	B	今年度で終了するSPH事業の定着のために、11のスキルを中心とした評価方法の確立を今後も継続的に推進していく。 コロナ禍ではあるが、できる範囲での地域等との交流を実施し、系統的・体系的なキャリア教育を推進し、勤労観や職業観を育成する。また、キャリアパスポートの利活用についても今後さらに活用を検討していく必要がある。 GIGAスクール構想によるICT機器も整備されつつあり、来年度の入学生よりBYODの持ち込みが開始される。今後は、これまでの教授用のICT活用だけではなく、主体的・対話的な学びにおけるICT活用が必要だと考えている。
		系統的・体系的なキャリア教育を推進し、勤労観や職業観を育成する。	キャリアパスポートの利用		
		専攻科創造工学科においてより高度な知識や技術・技能、設計力の育成を推進する。	専攻科の完成と本科との交流		
		学校教育全体において、ICT機器を活用できる力を育む。	授業、アンケート、外部への情報発信等でのICTの活用		

学校関係者評価	
実施日(令和4年1月25日)	
評価	意見・要望等
4	出席率99%以上、交通違反・事故0に取り組み成果を出している。コンプライアンスが求められる現代社会において高く評価できる。またインターンシップの取り組みは参加している企業数が多く、甲府工業の社会的信頼性や就職した卒業生の評価が高いことが推測され、甲府工業の底力を感じられる。 インターンシップにより生徒の自覚を変化させており、質的にも高いものである。コロナ禍にあり、学校側にも企業側にも大変な努力があったと推測できるが、引き続き継続していただきたい。
3	アクティブ・ラーニングやルーブリック評価など、SPH事業の成果を取り入れ新しい取り組みにチャレンジしている点が評価できる。これらは新学習指導要領の中でも重要な取り組みとなるので、引き続き継続できることを期待したい。 また、ものづくりコンテストの成績や資格取得についての取組は評価できる。特に電気保安の難関試験に2人が合格したことは快挙である。今後も継続した指導をお願いしたい。
3	部活動も成果を出しており、順調だと評価できる。一方で、生徒の主体的な取り組みを促すためにも、顧問ばかりでなく、生徒にも計画立案や練習メニューの作成などを考えさせる取り組みがあってもよいのかと思われる。生徒が主体的に取り組むことにより、普段の学習が科学的トレーニングにも反映できることを実感できる機会になると考えられる。コロナ禍の部・委員会活動の在り方を引き続き進めていく必要がある。
3	多くの賞を獲得しており、大きな成果が出ている。ルーブリック評価など、SPH事業の取り組みの成果は平素の授業の中にも還元されており、事業の定着と進化を見ることができる。 次年度からはBYODの取り組みが始まる。甲府工業には県内で最も情報処理能力の高い先生方が集まり、県内で最も情報技術に関心のある生徒が集まっている。県内のICT利用教育のリーダーとなっていただくことを期待したい。